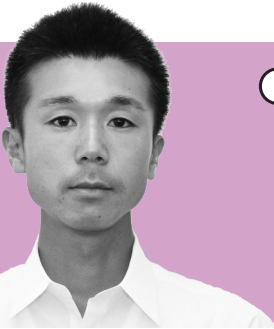


中山光平議員
市民の会

○非常時から見える問題と これからの課題

問 今年度の鳥獣害対策に動員した正規職員の数や残業時間、及びそれらの動員で各種、手当てや振替などの措置はあったのか。また、昨年度の振替、代休及び年次有給休暇の使用状況を伺う。

答 全庁的な正職員の動員により対応し、10月の時間外勤務時間はのべ1409時間となり、人数は114名となった。

今回のクマ対応にかかると時間外勤務については、時間外勤務手当の支給、及び振替措置とした。

平成30年度の正職員における振替・代休の取得状況は、週休日及び休日勤務が年平均5・1日のところ、振替・代休の取得は年平均5・3日となっている。また、年次有給休暇の取得状況は、年平均6・5日となっている。

これらから人材不足という問題が見えてくるが、その原因は財源不足にある。つまり20年以上続くデフレの影響である。

デフレとは生産力に対し貨幣供給量が少ない状態を言うが、なぜ貨幣発行してこなかったのか。政府が財政赤字削減を目標としてきたからである。その根拠になっているのが財政赤字で貨幣発行が制限されるという誤った考えである。

実際に貨幣発行を制限するのはインフレ率であるが、現在はデフレ環境であり、国債は自国通貨建て、低金利。これらの条件を見ても通貨発行になら問題はない。貨幣発行の仕組みを理解し、対策すれば解決可能な問題である。

これは地方が直接解決できる問題ではないが、地方は与えられた状況に耐えるだけなのか。これまで通り粛々と自治を行ってきた上で、地方の声を政府に届ける必要を強く感じる。

その両輪を回すことがこれからの地方に共通した課題であると提言する。

常任委員会報告

予算委員会

■今定例会の審査結果

議案第35号令和元年度勝山市一般会計補正予算（第3号）を審査し可決しました。

勝山市土地開発公社の長期借入金に対する債務保証について

令和5年に予定されている中部縦貫自動車道県内全線開通や北陸新幹線福井開業は、企業誘致や勝山市の観光の産業化を実現する大きなチャンスです。それを見込み、道の駅隣接地において新たな産業団地造成事業を計画しました。まず公共用地の先行取得を行うため、勝山市土地開発公社が金融機関より借り入れする事に対し市が令和4年度まで債務保証を行います。委員からは、まだ企業の誘致が決まる前から借り入れをするのは拙速ではないかという意見もあり議論になりました。しかし土地を準備しておくことで企業誘致のチャンスが来るとの結論に至りました。

不妊治療の助成について

通常この助成については1回10万円を限度に5回まで助成をするもので、すでに本年度予算を超える8件の不妊治療助成の申請があり、補正を行うもの。委員からは出生に関わる事なのでなるべく早急に対応して頂きたいという意見と、この助成は男性も申請可能かという質問もあり、男性も対象となるが、女性からの申請しか今の所はないとのことでした。

はたや記念館ゆめおーれ勝山の指定管理業務について

はたや記念館ゆめおーれ勝山は開館以来、勝山市繊維協会及びNPOまちづくり勝山に運営を委託してきましたが、令和2年4月1日から令和4年3月31日までの2年間、指定管理者制度の導入を決定しました。今後、指定管理者はミュージアム機能の強化と、自主事業による収益化を運営方針とし、繊維産業への関心を高める取り組み、展示案内、広報、施設管理、各種イベントの開催、物販、飲食物の販売などを担っていくこととなります。